

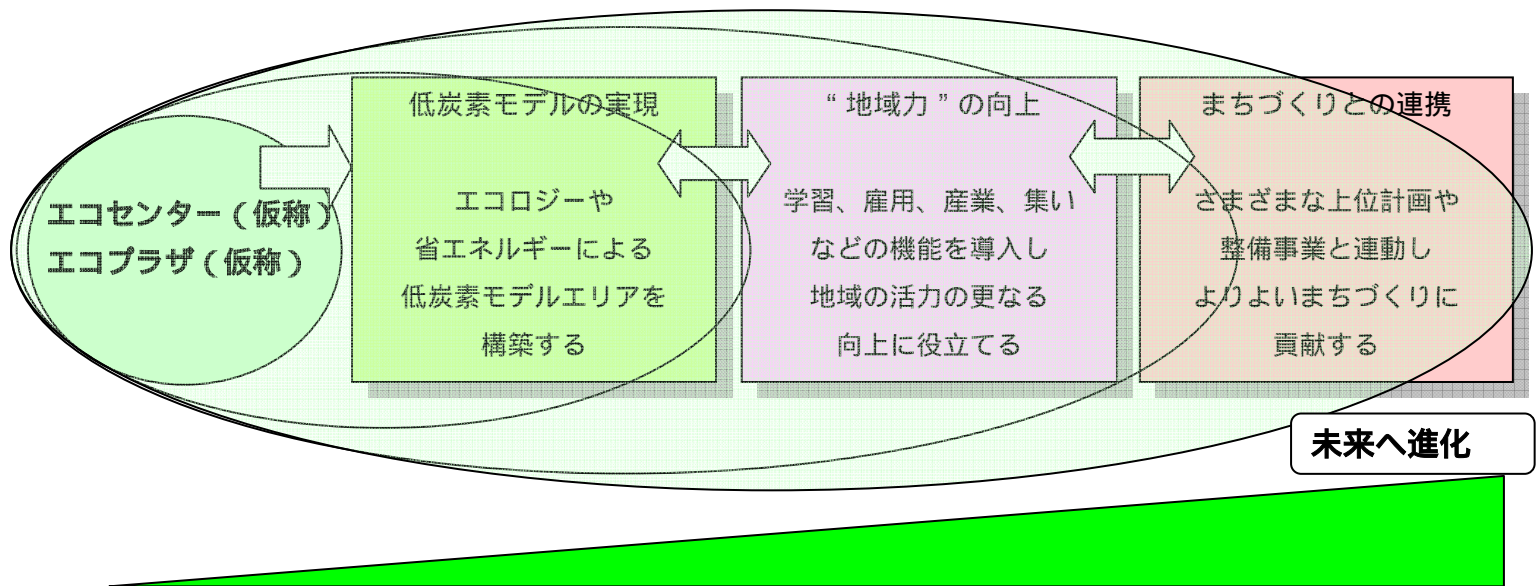
# 第一期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会提言から

## 次の検討課題へ

### 低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み

～ ここだからこそできる、低炭素社会の取り組み ～

「低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み」の実現のための3つのテーマ



「低炭素モデルの実現」、「地域力」の向上、「まちづくりとの連携」の3つのテーマを展開し、「低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み」を実現するため、(1)「エコセンター（仮称）」と「エコプラザ（仮称）」、(2)エリア整備、(3)周辺整備別に、3つのテーマから求められる機能を整理した。

### 次の検討課題

(1)「エコセンター（仮称）」と「エコプラザ（仮称）」

「エコセンター（仮称）」の建築デザイン 「建築デザインイメージ作成」

(次の検討課題)

「エコセンター（仮称）」と「エコプラザ（仮称）」の連携  
「エコセンター（仮称）」/エネルギー供給施設と地球温暖化対策  
「エコプラザ（仮称）」の利用方法 緑町コミセンと機能の補完  
イベント広場の利用方法  
緑町コミュニティセンターと機能を補完しあう

# ‘ まちに溶け込む次世代型市民施設 ’

## ‘ エコセンター（仮称）’ と施設・周辺整備のデザイン

みんなで作るエコセンターのデザイン

市民のみなさんと一緒に施設デザインをつくりあげる、設計プロセスをつくろう。

「わいわいつくろう!」「わくわくつくろう!!」そして「夢をつくろう!!!」

### (1) 周辺環境へつながるデザイン

まちの顔となる施設のデザイン

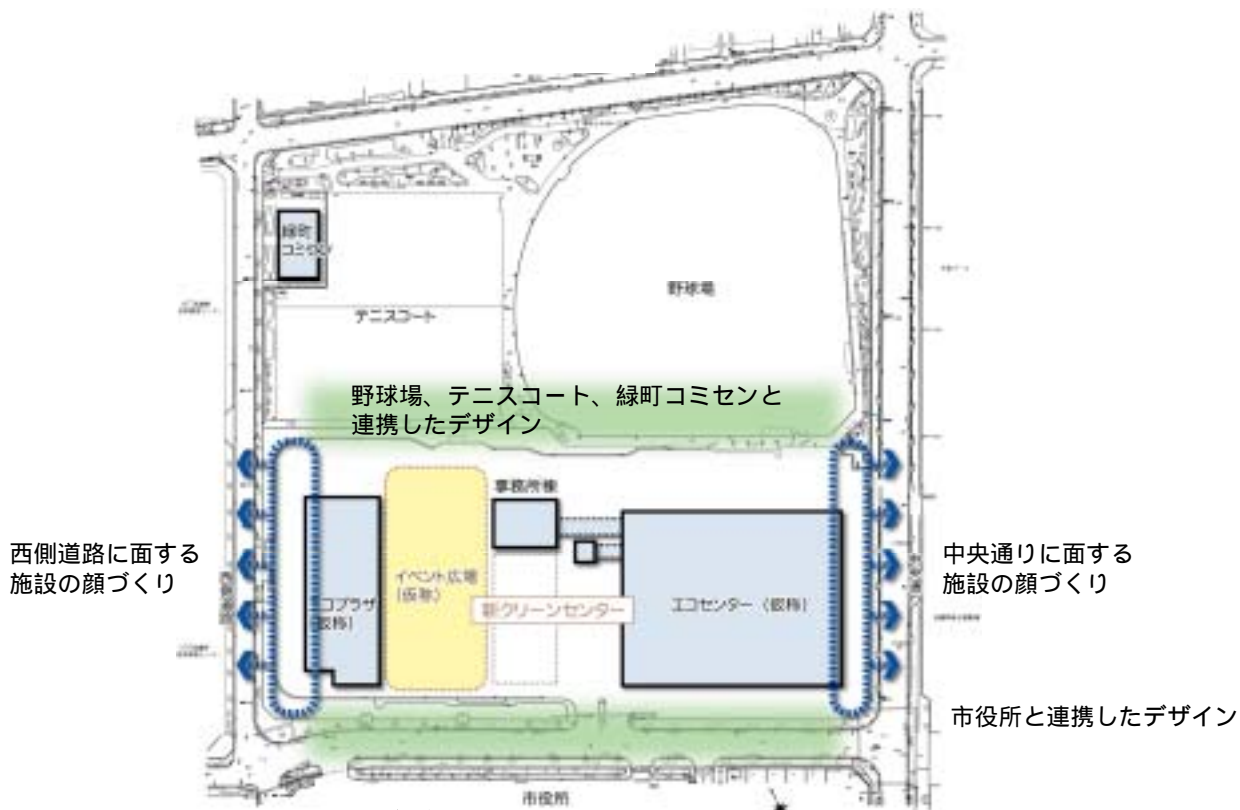
- ・まちの顔、或いはまちづくりの顔となる施設デザインを目指す。

敷地周辺の状況に配慮したデザイン

- ・中央通りに面する施設の顔づくり
- ・敷地北側野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターと連携したデザイン
- ・敷地西側道路に対する顔づくり
- ・市役所と連携したデザイン

エコセンターにふさわしい煙突のデザイン

- ・既存煙突の利用を基本とし景観にも十分配慮したデザイン



### (2) 開かれた施設のデザイン

開放的なデザイン

- ・開放的でオープンな施設の表情づくりをおこなう。

人を施設に引き込むデザイン

- ・人を施設に誘うような施設のインターフェイスのあり方に配慮する。

まちづくりへの展開

- ・施設内の活動がまちづくりの拠点とつながるような施設デザインをおこなう。

### (3) 敷地内でのつながりをもったデザイン

施設の全体性、連続性

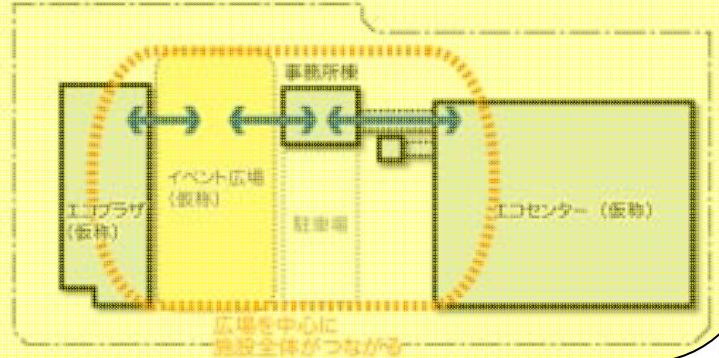
- ・施設内で一体的に連続感のある施設構成とする。

施設をつなぐイベント広場

- ・敷地中央にあるイベント広場（仮称）との有機的な連携をもったデザイン

施設管理

- ・施設管理面でも人にやさしい計画とする。



### (4) 施設のコアとしてのデザイン：エコセンター+エコプラザ

エコセンターとエコプラザが相互に機能することで周辺のまちづくりの広がりへと展開する。

エコセンター

- ・低酸素型社会実現に向けたモデル施設としての建築デザイン
- ・中の活動が見えるオープンな施設
- ・見学者が自由に楽しめる施設構成

エコプラザ

- ・既存施設のコンバージョンのよさを十分に活用する
- ・市民が活発に利用できる施設デザイン
- ・さまざまなプログラムが展開可能なフレキシビリティ

#### ‘エコセンター（仮称）’建築デザインの検討（第二期施設・周辺整備協議会）

前半の議論として「建築デザイン」の検討を行った。「外から見た人にも“この地域に住みたい”と言ってもらえるデザイン」を大きなテーマとして、3つのデザイン方針「すべての面が“オモテ”になるデザイン」、「やわらかく“やさしい”デザイン」、「いつでも“人の姿を感じる”デザイン」を導きだし、テラコッタルーバーを主な素材として、「建築デザインイメージ」を作成した。この「建築デザインイメージ」を実現するため、事業者選定基準の評価の視点にある「景観及び建築デザインに配慮した施設づくり」の提案のための参考資料として提示することとした。



参考：建築デザイン（市役所から見た南立面図）

\*煙突デザインは今後の検討

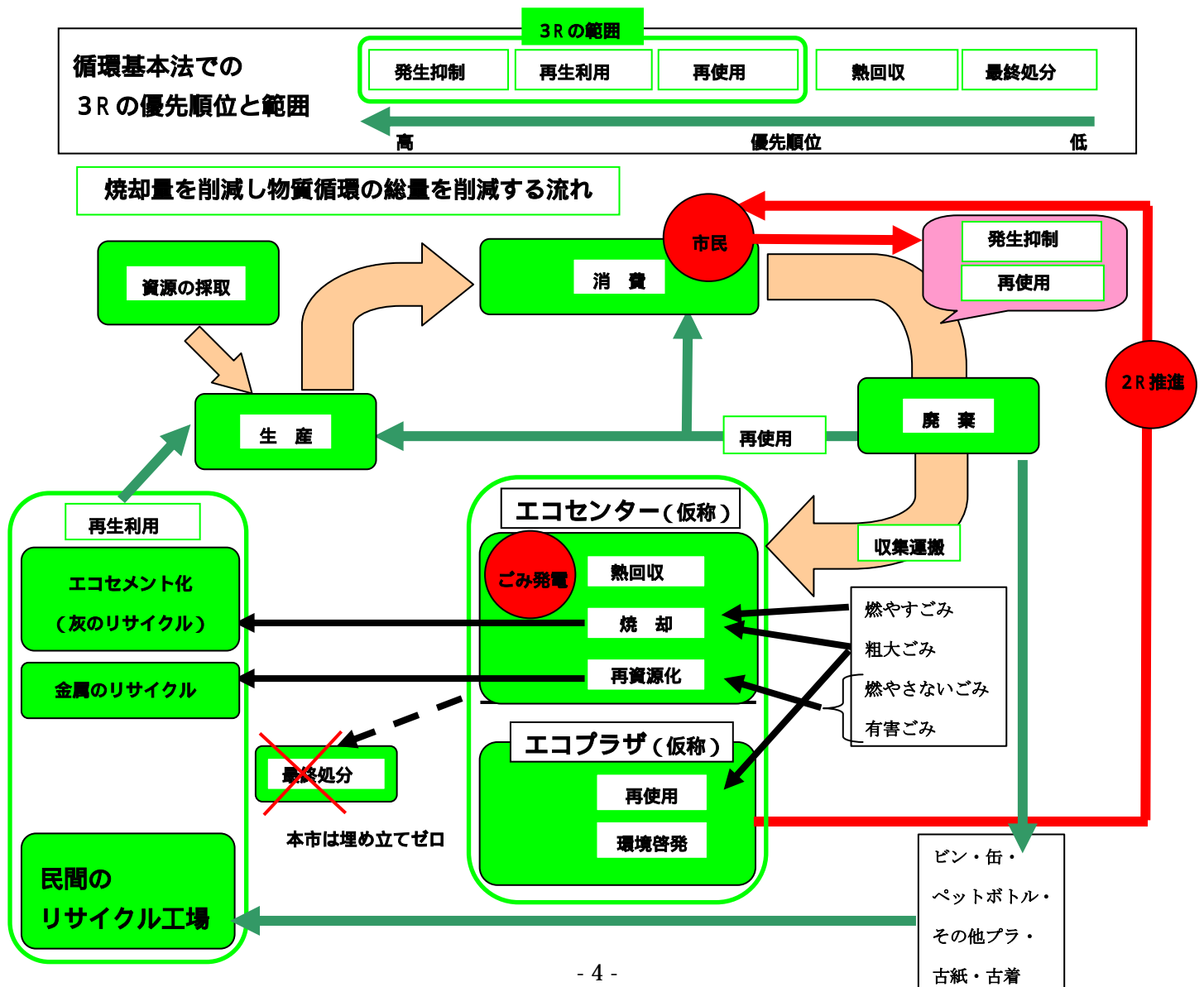
## エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）の役割

当協議会では、「エコセンター（仮称）」と「エコプラザ（仮称）」を軸に、「低炭素モデルの実現」、「地域力」の向上、「まちづくりとの連携」の3つのテーマを展開し、「低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み」を実現することを提案する。

「エコセンター（仮称）」では、ごみ焼却、再資源化施設の中で、ごみ発電による「熱回収」としてのエネルギー供給施設として位置付ける。また、焼却した灰は日の出町二ツ塚へ搬入し、エコセメントとして「再生利用」する。燃やさないごみ、粗大ごみから鉄、アルミを中心に、レアメタルの回収も行い、「再生利用」を進める。この「エコセンター（仮称）」に搬入されるごみから「再使用」へ返還させる施設が「エコプラザ（仮称）」である。例えば、市民の手によって家具を再生し、そして市民が再使用する。「エコプラザ（仮称）」を発展させるため、「発生抑制」と「再使用」へつながる市民へのごみ減量の啓発プログラムを展開する。この両輪が低炭素社会構築をけん引することで、将来、この両輪のバランスが変わり、焼却量を削減し物質循環の総量を削減する目標とする。

さらに、「エコプラザ（仮称）」は「低炭素モデルの実現」、「地域力」の向上、「まちづくりとの連携」を進める拠点と展開していく。

将来、ごみの減量、技術革新、社会経済の変化などによる、ごみ処理施設の広域化や分散化が想定されるが、市民としては暮らしの中での2R（「発生抑制」と「再使用」）を軸に、脱焼却の推進に努めていく。





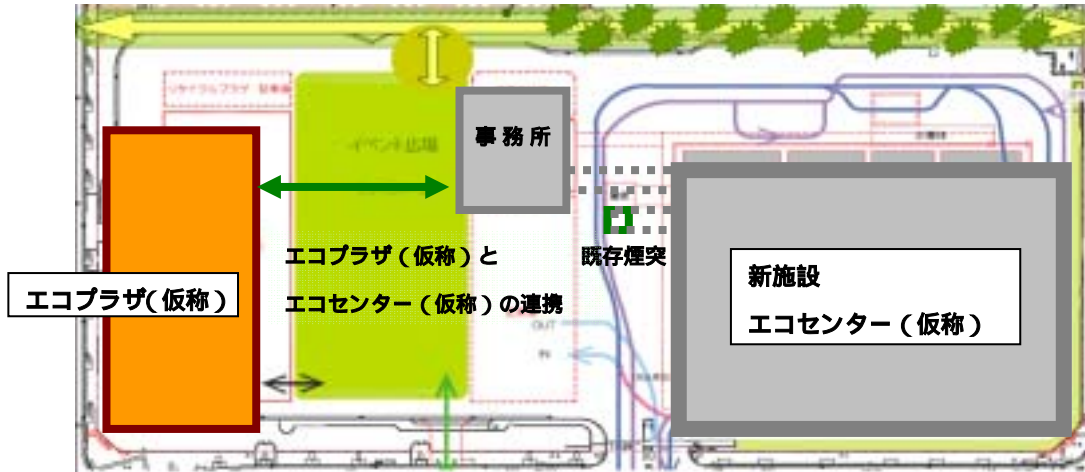
# ‘エコセンター（仮称）’と施設整備のイメージ化

## （１）‘エコセンター（仮称）’と‘エコプラザ（仮称）’

新施設を‘エコセンター（仮称）’と名付け、排熱を可能な限り再利用するエネルギー供給施設として位置付ける。

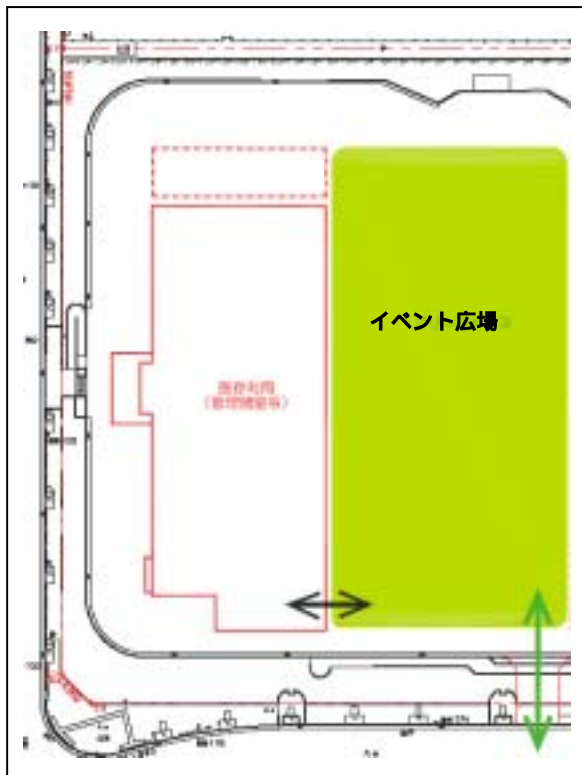
環境への配慮から、事務所棟およびプラットホームを再利用し、地球温暖化を考える‘エコプラザ（仮称）’を整備する。

‘エコセンター（仮称）’と‘エコプラザ（仮称）’の間に、‘イベント広場’として、足湯なども設け、市民の憩いの場とする。



## （２）エコプラザ（仮称）’（事務所棟およびプラットホームの再利用）

現施設の解体部分を減らすことは、建設廃棄物も減り、エコにもつながる。そのため、工場部分と切り離せる事務所棟およびプラットホームを再利用し、地球温暖化を考える‘エコプラザ（仮称）’を整備する。



### 利用案

- ・エコプラザへのリニューアル
- ・会議室、見学者ホールの活用
- ・イベント広場の整備
- ・足湯の設置
- ・カフェ・レストラン
- ・余熱利用パン工房
- ・フリーマーケットができる場所
- ・日常的に利用するスペース
- ・子どもの自由な遊び場
- ・誰でもトイレ

など

# (1) 'エコセンター(仮称)' と 'エコプラザ(仮称)'

協議会提言 | 3つのテーマに基づく新施設整備、エリア整備、周辺整備の考え方の整理(案)

## 新施設 | エコプラザ・エコセンター

3つのテーマ	3つのテーマから求められる機能	整備の考え方		
		キーワード	必要な空間	
低炭素社会モデル	<p>【エコセンター】 廃熱を可能な限り再利用するエネルギー供給施設</p>	<p>ごみ発電によるエネルギー供給 太陽光発電など自然エネルギー利用 建物(壁面・屋上)緑化</p>		
	<p>【エコプラザ】 環境啓発の拠点 (低炭素社会に向けた行動を促す場)</p> <p>エコセンターに持ち込まれるごみを通じて、社会を見直し、地球を感じ、低炭素化に向けた行動を促す。 ここで行われること全てが環境啓発機能を有し、その全ての基となる素材は、エコセンターに持ち込まれたごみである。</p>	<p>学び (ごみから学ぶ)</p> <hr/> <p>創造 (ごみから新たな価値あるものをつくる)</p> <hr/> <p>コミュニケーション (ごみを媒介に対話を生み出す)</p>	<p>【基本空間】 素材になるごみを受け入れるスペース</p> <p>ごみを素材にかえるスペース ・仕分ける ・解体する ・きれいにする ・加工する</p> <p>素材を置くスペース ・整理する ・保管する</p>	<p>ごみから学ぶスペース ・知る ・触れる ・体験する ・表現する</p> <p>ごみから新たな価値あるものをつくるスペース ・形を考える ・素材を加工する ・つくる ・展示する・販売する</p> <p>コミュニケーションを促すスペース ・座って話ができる ・思いついたことを書いたり、描いたりすることができる ・誰もが気軽に来られる ・お茶が飲める ・パンを食べられる ・ハイハイができる ・自転車を解体してメンテナンスできる</p>
地域力の向上	<p>地域力を結ぶ核 (環境改善、社会の改善、経済の促進に、地域力で取り組む場)</p>	<p>集う、参加する、働く、支える (地域力を集めて、地域力で運営を担う)</p>	<p>新たな市民施設の建設により市民の様々な活動に寄与し、新たなライフスタイルや活動の“後押し”をする 緑町コミュニティセンターと機能を補完しあう 雇用の場の創出する</p>	
まちづくりとの連携	<p>景観形成への貢献 明るく開放的な施設づくり</p>	<p>現施設より北側に寄らない施設配置 ごみ焼却施設というイメージ与えない建物デザイン 煙突デザインの工夫 施設へのアクセスを容易にする工夫(外周道路と敷地の取り付けや出入り口の工夫)</p>		

新施設 | エコプラザ・エコセンター

意見	
(施設・設備)	(ソフト・プログラム)
分散化する処理施設のショーケース、クリーンサロン 電気自動車のエネルギーステーション 太陽光発電、風力発電 公用車やムバス、パッカー車の電気自動車化 クリーンセンター北側外壁・屋根の観客席利用 地下利用による建物上部の開放(かごしま環境未来館「緑の台地」のように)	
見学者コース、見学者ホール 足湯・岩盤浴 古紙を利用したトイレトーパー製造機 子どもも利用できるリサイクル工房	ごみ処理やリサイクルの仕組みが楽しみながら理解できる展示施設や見学コース ごみを中心とした様々な活動を地域通貨で行うエコ関係のネットワークの拠点 脱焼却・脱廃棄に向けた知恵を集める仕組み 世界にも発信できる拠点 生物多様性・絶滅危惧種などを考える拠点到楽しく学べる、体験できる場所 見て・感じて分かりやすい 車いすでも見学しやすい いつも見学ができる いやしのスポット
再生ものづくり機能 ・再生ガラス製品 ・裂き織り ・金継ぎ ・プラスチック袋再生製品 リサイクル品を売る場所 リサイクル工房+研究所	焼却の場から再生産の場へ発想の転換 ごみを持ち込むだけの施設ではなく、持ち出すものもある施設 クリエイターやアーティストの活用 リサイクルの機会を増やし、リサイクルショップを併設
集会施設・会議室 ホール・共有スペース 集まって何かができる空間 カフェ・レストラン 余熱利用パン工房 フリーマーケットができる場所 日常的に利用するスペース 子どもの自由な遊び場 誰でもトイレ	生ごみ堆肥を使った野菜やハーブを利用 地域に開かれたオープンな施設、市民にとって入りやすい場所 地域住民が気軽に利用できるカフェや小さい子ども連れで利用できるスペース 安くて子どもも入りやすいレストラン 賞味期限切れのお店 交流スペース、遊び、勉強などできる場所 フリーマーケット クリーンセンターの蒸気を利用したランドリー
市民参加、情報発信の場 環境をテーマにした社会的起業、若者の就業支援 立地特性を生かした、障害者(児)等の雇用の場の創出 ローカルマネーを使った運営	
周囲の公園と一体になった、明るく、入りやすい雰囲気建物 きれいな花を植える 煙突の季節に合わせた飾り付け 煙突の緑化(グリーントワー)	

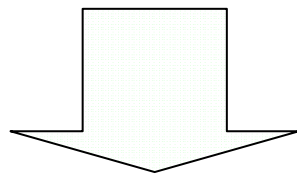
## 【議論の進め方】

‘エコセンター（仮称）’と‘エコプラザ（仮称）’の検討

‘エコセンター（仮称）’の建築デザイン 「建築デザインイメージ作成」

↓  
（次の検討課題）

‘エコセンター（仮称）’と‘エコプラザ（仮称）’の連携  
 ‘エコセンター（仮称）’/エネルギー供給施設と地球温暖化対策  
 ‘エコプラザ（仮称）’の利用方法 緑町コミセンと機能の補完  
 イベント広場の利用方法  
 緑町コミュニティセンターと機能を補完しあう



‘エコセンター（仮称）’と‘エコプラザ（仮称）’の連携の考え方

	‘エコセンター（仮称）’	環境キーワード	‘エコプラザ（仮称）’	環境キーワード
位置付け （主）	ごみ処理施設	焼却 再資源化	リサイクルセンター （リサイクル工房、販売）	再資源化
位置付け （付加価値）	エネルギー供給施設 （ごみ発電＋ガスコー ジェネレーション）	熱回収	環境啓発施設 （学ぶ・創造・コミュニケ ーション）	発生抑制
緑町コミセ ンとの連携	電力供給	熱利用	緑町コミセンと機能の補完	発生抑制＋コミ ュニケーション

↓  
新武蔵野クリーンセンター（仮称）における排熱エネルギー活用計画（案）